

茨建協

ニュース

2020/1

No.606



△主な内容▽

- ▼ 年頭ごあいさつ
- ▼ 下田元副会長が旭日双光章を受章
- ▼ 女性部会が現場見学会
- ▼ 各種セミナーでスキルアップ

本会ホームページに「茨建協ニュース」の内容を掲載しています。ご活用ください。

本会はコンプライアンス(法令遵守)をさらに徹底します

発行 (一般社団法人) 茨城県建設業協会

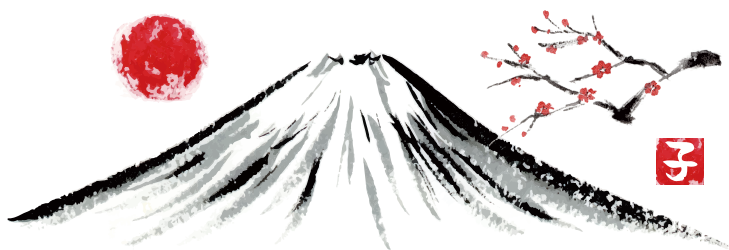
〒310-0062 茨城県水戸市大町 3-1-22

電話 029-221-5126 (代)

H P <http://www.ibaken.or.jp/>

編集 日本工業経済新聞社・水戸支局

年頭の ごあいさつ



一般社団法人 茨城県建設業協会

会 長 石 津 健 光

新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、当協会の運営につきまして、特段のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。



さて、昨年を振り返りますと、8月末の九州北部地方の豪雨、9月の台風15号による記録的な暴風、そして、10月の台風19号では、関東甲信地方から東北地方の広範囲にわたり、記録的な大雨と河川の決壊・氾濫により、多大な被害がもたらされました。

ここに改めて、被害を受けられました皆様方に、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます次第でございます。

当協会におきましては、15号被害においては、千葉県の3市町にブルーシートなどの物資の支援を行うとともに、鴨川市に対し、屋根補修の作業員派遣を行いました。

さらに、19号による県内の水害被害では、常陸太田市、常陸大宮市、大子町において、会員企業による災害ゴミ撤去等のボランティア活動を実施いたしました。

これら二つの台風被害における支援について

は、各支部のご協力により、建設業協会としての社会的使命を果たすことができたものであり、改めて会員企業のご理解、ご協力に感謝申し上げます。

さて、ご承知のとおり、建設業界においては、少子高齢化が急速に進む中、現場の技能労働者の高齢化や若手入職者の確保難といった、構造的な課題に直面しております。

このため、「働き方改革」の一環として、昨年6月から、毎月第2土曜日を県内公共工事の一斉休工日とする取り組みを開始したところでございますが、新年度からは、毎月第2・第4土曜日に拡大してまいりたいと考えております。

また、担い手の確保につきましては、昨年9月には、協会内に女性部会「建女ひばり会」を設置したところでございますが、女性が入職、活躍できる建設産業を目指した取組を積極的に推進してまいりたいと考えております。皆様方におかれましては、何とぞ、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

地域の基幹産業として、次代を担う人材の確保・育成に不可欠な「働き方改革」等に取り組みながら、「地域の守り手」という社会的使命を継続して果たしてまいりたいと考えておりますので、皆様方の、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、会員各位の更なるご発展とご多幸を祈念いたしまして、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。

茨城県知事

大井川 和彦

新年あけましておめでとうございます。

昨年を振り返りますと、令和初の国体「いきいき茨城ゆめ国体」で、45年ぶりに天皇杯・皇后杯を獲得するなど明るい話題がある一方、相次いで発生した大型台風により、本県は甚大な被害を受けました。

被災された多くの方々に、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災者の皆様が一日でも早く心安らぐ生活を取り戻せますよう、引き続き、全力で復旧・復興に取り組んでまいります。



さて、人口減少や少子高齢化、デジタル経済の進展などにより、社会情勢が急速に変化する中、私はこれまで、茨城も変わらなければ未来に希望はないとの危機意識を持ち、「スピード感」と「選択と集中」を信条に、困難な政策課題にも臆せず取り組んでまいりました。

本年は、これまで打ち出してきた政策を、よりスピード感を持って推し進めていくとともに、絶えず効果検証を行い、軌道修正が必要とあらば、躊躇せずに見直しや追加の対策を実施し、新たな課題に対しても積極的に対応してまいります。

引き続き1人でも多くの皆様に、「茨城県、ワクワクするよね」と感じていただけるような「新しい茨城づくり」に挑戦してまいりますので、なお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

皆様にとりまして、本年が実り多き素晴らしい1年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

一般社団法人 全国建設業協会

会長 近藤 晴貞

令和の御世になり初めての新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

平素は、全建の事業活動に対し格別のご支援・ご協力を賜り、改めて厚く御礼を申し上げます。

昨年は、担い手確保・育成に向け労働環境の改善や生産性向上などを一層推し進めるための所謂「新・担い手三法」の成立をはじめ、働き方改革関連法の施行や建設キャリアアップシステムの本格運用開始など、建設業が魅力ある産業として輝くための環境整備が多く図られ、建設業界にとって大きな転換点となる一年でございました。

今年はいよいよ「東京オリンピック・パラリンピック」の開催を迎えます。世界中から集結するトップアスリートたちが生み出す熱狂と感動の日々に向け、着実にその気運は高まりを見せており、



我々建設業界も開催国の一員として大会の成功に貢献していきたいと思えます。

一方、地域建設業は、社会資本整備や維持管理の担い手であるとともに、災害現場の最前線で活動するなど、地域社会の安全・安心を守る「地域の守り手」としての社会的使命を担っております。昨年は全国各地で自然災害が猛威をふるい、各地に甚大な被害をもたらしましたが、「地域の守り手」としての使命をさらに果たしていかなければならないとの決意を新たにしたところでございます。

地域建設業がこれからもその使命を果たしていくためには、働き方改革などの新たな課題への対応や、依然とした地域間格差や大企業と中小企業との企業間格差等の課題に的確に対応していかなければなりません。

全建は47都道府県建設業協会と一体となり、引き続き地域建設業の課題と向き合い、積極果敢に取り組んでいく所存でありますので、ご理解とご支援のほどを何卒よろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、皆様方のご多幸とご健勝を祈念いたしまして、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。

下田徳行元副会長 旭日双光章を受章

令和元年秋の叙勲で、本会の下田^{のりゆき}徳行元副会長（水戸支部、菅原建設㈱代表取締役社長）が建設業振興功勞で旭日双光章を受章されました。

まことにおめでとうございます。ますますのご活躍を祈念いたします。

下田氏は昭和22年1月生まれ。日本大学芸術学部美術学科を卒業後、宝建設㈱に勤務。昭和50年に家業の菅原建設㈱に入社し、平成5年から代表取締役社長を務めています。

社業では創意工夫を凝らし、経営の合理化、現場の生産性向上、労務安全管理等に積極的に取り組み、優良企業として確たる基盤を築かれました。国や県から多くの優良工事表彰も受賞し、平成29年には建設事業功勞で国土交通大臣表彰も

受賞されました。

本会におきましても平成18年から理事、平成20年から常任理事、平成28年から平成30年まで副会長。水戸支部でも平成22年から副支部長を務めており、地域業界の進展に寄与されています。



下田元副会長の話

「受章に浴したことは大変な名誉で、諸先輩をはじめ関係者の皆さまに感謝申し上げる。今後とも建設業界の発展に尽力してまいりたい」

弓野組(常陸大宮支部)が国交大臣から感謝状

建設工事受注動態統計調査に尽力

本会の㈱弓野組（常陸大宮支部）では、建設工事受注動態統計調査に尽力したとして、国土交通大臣から感謝状が贈呈されました。

表彰伝達式は昨年11月21日に茨城県常陸大宮土木事務所で行われ、松橋秀広技監兼所長から感謝状が伝達されました。

建設工事受注動態統計調査は、国が行う基幹統計調査のひとつ。直前3年間のすべての月において、調査票の期限を遵守し、内容も正確であることから、社会的責任を十分に思量しているものとして受賞に至りました。

伝達式で弓野専務取締役は「発注者が要求するものを誠実に納品することを心掛けています。今

後も精進し、研さんしていきたい」と意欲を見せました。松橋技監兼所長は「管内から表彰者が出たことを喜ばしく思う」と称えました。



国交大臣からの感謝状が贈呈されました

女性活躍の現場を視察 ～「建女ひばり会」が見学会～

本会の女性部会「建女ひばり会」(柳瀬香織会長)は昨年12月3日、行方市両宿で初の現場見学会を行いました。会員をはじめ国や県の女性職員など約50人が参加。女性技術者が活躍している現場を視察し、技術への見識と懇親を深めました。

石津健光会長は「女性部会の記念すべき第1回目の事業。今後の女性活躍推進の一助となれば」と期待を寄せました。

見学先は関東地方整備局発注の「H30 東関道国道354号跨道橋下部その1工事」。受注者は(株)新井組(本社・兵庫県)。

見学会では工事の現況のほか、快適トイレの設置、女性パトロール・懇談会など女性活躍に関する同社の取り組みを研修しました。

参加した会員からは「広い現場なのに隅々にま



参加した女性部会員など

で目が行き届いており、きれい」「普段働いている現場よりも規模が大きく、刺激を受けた」などの声が上がりました。その後は今後の目標や課題について意見交換を行いました。

柳瀬会長は「見学会で学んだことを持ち帰って、今後に活かしてほしい」と呼び掛けました。

県の総合評価変更点など研修

土木委員会



土木委員会(梅原基弘委員長)が12月3日に開かれ、県土木部の総合評価方式の改定、県の災害復旧事業における主任技術者の取り扱いについて説明を受け、意見を交換しました。

また台風19号による災害復旧工事を迅速かつ円滑に進めるため主任技術者の兼務を認めることについての説明も受けました。

若者に魅力ある職場に

推進委員会



本会など建設業団体や県立高校の教諭などで組織している「若年者に魅力ある職場づくり事業推進委員会」と「建設労働者確保育成事業推進委員会」が昨年11月25日に開かれ、上半期の事業報告や下半期の取り組みなどを確認しました。意見交換では、魅力ある職場づくりを進めるとともに、建設業で働く人の姿や役割などを積極的に情報発信していくことが必要との意見がありました。

海難事故防止を研修

漁港建設協と共に



本会と全日本漁港建設協会茨城県支部、茨城県土木施工管理技士会は、海上工事施工に関する海難防止講習会を12月9日に開催しました。参加した技術者などは、事故防止対策や工事・作業等許可申請書などを記載する際の留意事項を研修。事故が発生すると工事中断や行政処分など社会的・経済的な影響が大きく、航行安全対策の順守徹底を確認しました。

外国人受け入れへ

手続きやポイント研修



本会は「建設業における外国人材の受入制度セミナー」を12月11日に水戸市の県建設技術研修センターで開催しました。外国人技能実習制度や建設分野の特定技能外国人の受け入れについて手続きや注意点などを研修。受入制度を理解し、外国人の適正で円滑な受け入れを行うことが大切になることを学びました。

働き方改革の推進へ

セミナーで制度研修



本会は「建設業における働き方改革セミナー」を12月13日に水戸市の茨城県建設技術研修センターで開催。労働時間や年次有給休暇制度などを研修し、働き方改革を推進していくことを確認しました。講義では建設業における働き方改革の影響や雇用のルール、取り組むべき課題として時間管理、36協定書や労働条件通知書、有給管理簿の作成などを研修しました。

消費税の仕組み研修

セミナーで解説



本会は「建設業のための消費税セミナー」を12月13日に水戸市の茨城県建設技術研修センターで開催しました。参加した経理担当従業員などは、消費税の基本的な仕組み、令和元年10月1日をまたぐ取引の処理、税率の経過措置、軽減税率制度、消費税の転嫁拒否の違反事例などを研修しました。個別の質疑応答なども行いました。

決壊現場の復旧見学

高校教諭が建設業再認識



本会は、昨年の台風19号で堤防が決壊し仮復旧した久慈川と浅川の現場で、農業土木の学科がある県立高校の教諭による見学会を11月29日に行いました。見学会は、高校生の進路指導などを行う教諭に社会資本整備の重要性や地域建設業の役割について理解を深めてもらうために実施。参加した教諭は、地域建設業の役割をあらためて再認識したと話していました。

水戸支部
活動報告

気象情報と 防災研修



水戸支部（尾曾正人支部長）は建設業経営講習会を昨年11月28日、水戸市の茨城県建設技術研修センターで開催。気象予報士を講師に招き、天気予報の見方や異常気象による災害から身を守る方法について研修。その他にも、もしものための備え、いざという時、何をすべきかなどについて学びました。

大子支部
活動報告

災害ゼロへ 安全大会



大子支部（大藤博文支部長）は昨年12月11日、災害ゼロ推進安全大会を支部会館で行いました。参加した約50人は講演や安全宣言などで安全への意識をさらに高めました。大藤支部長は「安全の基本は労働災害の防止である。大会を通じて安全意識を高めるとともに、安全の意味を再認識していただきたい」とあいさつしました。

大子支部
活動報告

生瀬小で 建設体験学習



大子支部（大藤博文支部長）では昨年12月9日、大子町立生瀬小学校で建設体験学習を行いました。参加した全校児童49人に、支部会員の技術者30人が重機の操作方法や土のうの作り方を指導。児童は「ドキドキしたけど、楽しかった」と話していました。その後は、グレーダーを使用したグラウンド整地作業を見学してもらいました。

バイパス改良工の現場を小学生が見学

常総国道事務所と共に開催

本会は国土交通省常総国道事務所と共に、建設現場見学会を昨年12月3日、国道6号牛久土浦バイパスの改良工事現場で開催しました。現場は、常総国道が発注した「H30牛久土浦B.P土浦地区改良工事」（土浦市中村西根）で、施工者は天海建設(株)（竜ヶ崎支部）。

参加したのは稲敷市立高田小学校の5年生23人。バックホウや高所作業車に試乗したり、ミニ消波ブロックに色付けしたりして、ものづくりの現場を体験しました。

開会式で常総国道の夏堀渉建設監督官が「牛久、つくば、土浦の3市を跨ぐ延長15kmの道路。渋滞や事故の問題を改善するために作っている」と同バイパスの概要を説明。天海建設の齋藤勝義工事



課長が工事概要について話しました。

その後、児童たちは3班に分かれ、高所作業車の試乗、バックホウの操縦、ミニ消波ブロックの色付けを体験しました。特に高さ20mまで上がる高所作業車は大人気で、「楽しかった」「筑波山が見えた」と喜んでいました。

コミュニケーション力を 新規入職者がフォローアップ研修



本会は、令和元年度の新規入職者等フォローアップ研修会を昨年12月6日、水戸市の茨城県建設技術研修センターで開催。近年に会員企業に入職した若手技術者などが「建設マンの行動」や仕事における話し方などを学びました。

講師を務めた全国建設産業教育訓練協会・富士教育訓練センターの花輪孝樹氏は「失敗をおそれず、受け身ではなく、積極的に考えて行動することが大切」と訴えました。

会員の動向

〈代表者変更〉

▽潮来支部

(株)篠塚工業所

橋本 幸次 → 橋本 佳雄

ちよつと言



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催まで、あと200日余となっております。オリンピックでは、本大会から開催都市の組織委員会は、国際オリンピック委員会（IOC）に対し、その大会に限定した競技を追加提案することができるようになります。本大会では提案した野球・ソフトボール、空手、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィンの5競技全てが追加競技として採択され、計33競技として実施されることになりました。2008年（北京）大会を最後に、今回より競技復活を遂げた「野球」は、とても楽しみにしている競技の一つです。 (S)